

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町村名	清水町
所属名	保健福祉課

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

保険者名	第 9 期介護保険事業計画に記載の内容				R6年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
清水町	①自立支援・介護予防・重度化防止	現状、特定健診の令和5年度受診率は46.5%であり、前年度に比較し6.6ポイント上昇し過去最高値である。令和6年度受診率は令和7年秋まで確定しないが、見込み値で43.2%と受診率は低下している。未受診者には個人通知や電話・訪問等で受診勧奨を実施している。また、重症化予防の取組みについては、対象者に訪問等を通じて適切な受診勧奨、保健指導を行い、生活習慣病の予防・悪化防止を図っている。 課題として、特定健診受診率は管内19市町村中、令和4年度16位、令和5年度13位と順位を上げたが、健康状態を把握しているのは対象者の半数さえ満たしていないため、生活習慣病予防としてより多くの人に特定健診を受診してもらうよう今後も積極的に受診勧奨を行っていく必要がある。また、健康教育等を通して住民の健康意識を高めていき、将来の介護予防にもつなげていきたい。	生活習慣の改善を図るとともに、疾病の早期発見・早期治療につなげるため、特定健診や各種がん検診を実施するとともに、受診勧奨に努める。また、特定健診の無料化を継続し、受診しやすい体制を作る。健康教育を実施する。	特定健診受診率 令和6年度 44.0% 令和7年度 47.0% 令和8年度 50.0% (令和6年度実績見込 43.2%)	未受診者への電話や訪問による受診勧奨、町内医療機関との連携を継続していたが、特定健診受診者は減少し、受診率は低下見込みとなった。健診結果は、来所や訪問で直接会って返却し、その内容について説明をすることで、自身の健康状態を理解し、生活習慣を振り返ることで健康への意識が高まるように努めた。 また、各種がん検診の受診者数は例年並みであり、ターゲットを絞った受診勧奨を継続する。	△	健診受診は、医療機関通院者も含め生活習慣病やがんの早期発見・早期治療にとって重要であるため、今後も継続して訪問、電話、通知等で受診勧奨を行う。また、併せて保健指導・栄養指導を行い、生活習慣病の重症化予防を図りながら、健康についての意識を高めていくことで将来の介護予防にもつなげていく必要がある。
清水町	①自立支援・介護予防・重度化防止	・老人クラブの数自体が減っていることから、実施回数と参加者数ともに減少しており、達成不可能な値であるため、目標設定の値を見直した。 ・1食量の食事を完食できていない人も多く、フレイル予防についての講話も取り入れていく必要がある。	健康寿命を目指すために必要な食生活について学習を行います。学習会では栄養士とバセリの会の会員で分担し、食に関する講話を行い、1食の目安量を確認してもらうため、栄養価を計算し、お弁当を提供します。	元気長生き料理教室 実施回数 令和6年度 10回 85人 令和7年度 10回 85人 令和8年度 10回 85人 (令和6年度実績 9回 85人)	1食の目安量を確認してもらうため、栄養価を計算し、お弁当を提供する。	○	老人クラブのクラブ数および会員数が年々減少傾向にある。健康づくりについて情報提供できる人数についても減少傾向ではあるものの、健康づくりや適切な食事への町民の関心もうかがえる。会場で試食するクラブとテイクアウトを希望するクラブがあるが、なるべく試食を実施することで学習の理解を深め、また、喫食量や食べ方の状況を確認する機会としたい。感染症対策によるここ数年での外出頻度の減少や活動量の低下の懸念、また、それによる生活リズムの乱れ等で食リズムが崩れやすい傾向があるため、今後も各クラブの希望に沿いながら健康づくりに向けて情報提供を行っていく。
清水町	①自立支援・介護予防・重度化防止	国内において65歳以上の人口は15年間で1千万人以上増えた一方、全国の老人クラブの会員数は減少の一途をたどっています。清水町においてもそれは同様で、平成30年度には12クラブ427人の会員がいましたが、令和7年3月31日現在は9クラブ205人となっております。おり深刻な課題となっています。 老人クラブは地域を基盤とする高齢者の自主的組織であり、活動内容は幅広く、日常の健康管理やボランティア等の社会奉仕活動、趣味やサークル活動の学習活動を展開していますが、会員が増えないことによる高齢化、活動の停滞が進み、新しい活動に積極的に取り組めない現状があります。	会員が生きがいを持って活動し、住み慣れた地域で支え合っ て過ごすことができるよう、老人クラブへの加入促進を図ります。単位クラブの領域を超える高齢者の健康づくりとボランティア活動等の各種活動を支援するため、老人クラブ連合会への補助金交付を継続するとともに、老人クラブ連合会と協働して、高齢者の生きがいづくりに結びつく老人クラブ活動のあり方について検討します。	単位クラブ数 会員数 令和6年度 10団体 265人 令和7年度 10団体 270人 令和8年度 10団体 275人 (令和6年度実績 9団体 205人)	・地域福祉活動(ふまねつと講習、健康体操、食生活改善指導)～各単位クラブで年2回程度実施 ・老人クラブ連合会主催の演芸大会～年1回実施 ・社会奉仕活動(地域の清掃や花壇整備、タオル寄贈) ・管内研修会への参加	△	・単に独自の活動を続けるのではなく、新規会員の獲得を目指し、「老人クラブが地域高齢者の生きがいと健康づくりの場、社会参加の場としての受け皿となっているか」について、今までの活動を見直しながら取り組んでいく。 ・活動状況や会員勧誘を掲載した広報物の作成～町内会や農事組合、自治会への回覧板を利用しての広報活動。
清水町	①自立支援・介護予防・重度化防止	国内において少子高齢化が急速に進む中、清水町においても総人口が減少し高齢化が確実に進んでいます。このような中で、健康で働く意欲のある高齢者に活躍の場を提供するシルバー人材センターは、高齢者の知識、経験、技能をいかした就業の場を確保、提供することにより、高齢者の社会参加、生きがいや健康増進に寄与し、活力ある地域社会づくりに貢献しています。 しかし、高齢者の増加に伴い、高齢者の生活スタイルが多様化しており、就業先の選択に際し、同センターの利用を必要としないケースが増えています。そのため、シルバー人材センターの会員数は減少傾向となっており、運営環境は厳しさを増しています。	清水町シルバー人材センターを通じて高齢者が働く機会と個人の経験や知識を生かす場を提供することにより、高齢者の生きがいづくりを支援します。また、高齢者の生活スタイルの多様化に対応するため、他自治体における高齢者の就労の実態やシルバー人材センターの運営に効果的な取組等について情報収集を行います。	シルバー人材センター 会員数 令和6年度 男性70人 女性45人 合計115人 令和7年度 男性70人 女性45人 合計115人 令和8年度 男性70人 女性45人 合計115人 (令和6年度実績 男性68人 女性44人 合計112人)	・臨時的かつ短期的な就業または軽易な業務に係る就業を希望する高齢者のための就業機会の確保及び組織的指導、職業紹介 ・高齢者に対し、臨時的かつ定期的な就業、その他の軽易な業務に必要な知識及び技能の付与を目的とした講習の実施	△	会員の確保とともに受注の確保に努める必要があり、需給のミスマッチを解消しながら就業先の開拓、会員確保の推進に努めなければならないと考えている。 会員の多様な就業機会を確保し、働き方の選択肢を広げるとともに、適切かつ円滑な運営を推進するため、一般労働派遣事業の推進、啓発活動を続けて展開していく。